



(株)大和 静岡工場（農場）現状報告 平成 25 年 3 月

この冬は大変厳しい寒さが続き日本中が寒波にさらされていますが、この寒さの中、茶樹は来たるべき新茶のシーズンに向けて、着実に生育しています。

この寒さによって、秋以降すべての茶園に施した有機肥料がゆっくりとデンプン質へと変化しながら根に貯蔵され、茶樹はじっくりと冬眠します。冬に気温が下がらないと根が冬眠状態にならないため栄養分の貯蔵がおこなわれず、肝心の新茶の芽に栄養がまわらなくなってしまいます。見た目だけで中身に旨みが無いお茶にならないよう、根の冬眠と、その根が土中の栄養を吸い上げやすくするための土壌作りは、この時期に欠かすことができないものです。

3月中旬くらいから気温の上昇と共に茶樹の根の活動が活発になり、茶園スタッフの作業もさらに忙しくなりますが、新茶の大敵「霜」に対しての対策強化を図りつつ、管理作業を進めています。

一昨年の凍霜害被害のように、霜によって新芽の生育や品質に大きな差が出てしまいますが、それを防ぐために、気温が低くなると茶園周辺の空気を自動的に攪拌する「防霜ファン」については、太陽の向きを考えながら1日に2回作動センサーを付け替えます。また、冬に風で親葉（新芽の下の古葉）が起き上がり、新茶収穫時に混入して品質低下が起きないようにおこなう「化粧ならし」は、2人チームで厳しくチェックしながら1mm単位で慎重に作業をおこなっています。

こうした、寒い中の地味な作業の一つ一つが美味しい新茶につながるのです。



防霜（ぼうそう）ファン点検 【90カ所の茶園を1日2回はチェックします】



化粧ならし【1mm単位で茶樹を整え、より良い新芽の生育を促します】